



- 緊張と充実の新任研修
- 盛り上がる庭木勉強会
- 大館ブランド生涯学習
- 地域学習「café くりた」
- 哲学対話「ふるさと」
- 地域創生ミニセミナー

秋田県生涯学習センター(編集:社会教育アドバイザー)

生涯学習・社会教育関係者研修

活発なワークショップ



新任職員研修

生涯学習・社会教育行政を担う新任職員の資質向上に向けた研修が、5月19日当センターで開催され60人が参加しました。

県教育庁沢屋隆世生涯学習課長の講演とその後の講義では、国や県の生涯学習の動向や施策などの説明があり、参加者には緊張の表情が見えました。午後のワークショップでは、現状の課題や解決策などについて積極的な意見交換がなされ、和やかさの中にも充実した研修振りが窺えました。

参加した大仙市の高田邦明さんは「大変勉強になったが、改めて人との関わりの大切さを痛感した」と話していました。

県民総「行動人」推進事業 行動人自主企画講座

庭木の手入れ勉強会



盛り上がる剪定の実演

秋田県生涯学習インストラクターの会主催の「庭木の手入れ勉強会」が、5月6日当センターで行われ42人が参加しました。

講師の造園インストラクター1級菊地春夫さんによる剪定に関する講義では、熱心にメモを取る参加者が多く見られ、その後の剪定の実演では、菊地さんが大胆に鋏を入れるたびに参加者から感嘆の声が上がるなど、会場は一気に盛り上がりました。

病虫害、肥料、移植などの質問にも丁寧な説明があり、参加者からは「今年は、きちんと庭木の手入れができそうだ」との声が多く聞かれました。

虹色企画

訪問インタビューシリーズ 第1回 大館市教育委員会 高橋善之教育長

— 教育が市政の基盤と聞くが

市総合計画では、「ふるさとキャリア教育」などの学びの場をとおした「ひとづくり」が市政の最重要プロジェクトとなっている。

— ふるさとキャリア教育は今

全小中学校の「おおだて型学力」を育む「百花繚乱作戦」、大館に不可欠な職と人財を育成する「大館未来人財プロジェクト」などは全市へ波及した。次は、市民による未来市民のための「市民版ふるさとキャリア教育」への拡充を図る。

また、観光キャラ「はちくん」を指導主事と社会教育主事に委嘱し、学校と地域の協働を市民にとっても親しみのあるものにした。

大館ブランドの内なるものを求めて大館市へ

希望が循環する生涯学習



高橋善之教育長と「はちくん」

— 大館の生涯学習への思いは

大人から「ここには何もない」の声を聞く。これは「心に何もない」の表れ。ふるさとに息づく人づくりの気概を呼び覚まし、大人も元気になる生涯学習が必要。

これまで子どもの希望を培ってきた地域社会は、今、時代の流れの中で喘いでいる。今度は、学校が地域貢献をする番だ。子どもの発信する希望が新たな価値と活力を生み出す。未来に通ずる地域創生には「希望の循環」が必要だ。

やがて来る時代を見据えて教育長さんが打った布石は、教育による大人と子どもの「希望の循環」づくりでした。

秋田市新屋の手作り品市「もの×まちさんぽ」が4月22日開催され、栗田支援学校高等部環境・福祉科の生徒たちが、今年で3回目の「caféくりた」を出店しました。

生徒たちは、人気の「たまこん」など8種類のメニューを注文から会計、商品の受け渡しまで、手際よくこなしていました。



栗田支援学校
「caféくりた」

3年生の生徒は「この活動がきっかけで地域の方から学校に来ていただいたり、私たちが地域の除雪を手伝ったりするなど、コミュニケーションの広がりや深まりを感じている」、「この学習を今後の進路選択や生活に活かしたい」と目を輝かせていました。

生き方に繋がる質の高い学びの中に次世代「行動人」としての生徒の姿が見えました。

秋田県立大総合科学教育研究センター主催の秋田哲学塾「哲学カフェ」が、5月14日秋田市にぎわい交流館で開かれ、幅広い年代や職種から28人が参加しました。

椛山女学園大学三浦隆宏准教授の進行で「ふるさと」をテーマに、ふるさとに根付く人、ふるさとを出て戻る人・戻らない人な



秋田哲学塾
「哲学カフェ」

どのふるさと観について語り合いました。

後半は「秋田が人を引き戻すふるさとであるためには」の問いかけに、秋田の現実やふるさと創生などの思いを話す人もいました。

県立大鈴木祐丞助教の「この哲学塾が秋田の生活で哲学を考える営みの機会となれば」との話から、生涯にわたる学びの知的基盤となり得る哲学対話の有用性を感じました。

地域創生セミナー

新しい時代の教育に向けた「次世代の学校・地域」創生プラン①

文部科学省では、学校と地域が一体となって推進する「次世代の学校・地域」創生プランを策定しました。

目指すもの	直面する課題	課題の克服に向けて	具体化の施策
一億総活躍社会 地方創生 → 地域の元気回復	高齢者人口 → 増 生産者人口 → 減 国際環境の変化 学校課題の複雑化・多様化 地域社会の希薄化 家庭の孤立化	中央教育審議会 3 答申 (H27. 12. 21) ①地域と学校の連携・協働に向けた改革 ②学校の組織運営改革 ③教職員制度の一体的改革 学校と地域のパートナーシップの構築	「次世代の学校・地域」 創生プラン

七色

今年度の文学リレー講座は、北条常久先生の「青年光太郎『道程』」がスタートでした。かねてから光太郎の『少年に与ふ』の情景に惹かれるものがあったので興味深く拝聴しました▼<そこでお説教を一つやるとしよう／みんな集ってほん気できけよ>。いたずら盛りの少年たちが、近所の小父さんの話にじっと聞き入る…そんな心とむ懐かしい情景が目には浮かびます。<持つて生まれたものを深くさぐって強く引き出す人になるんだ>の小父さんの説教に、少年たちは目を輝かせ小さな心を奮わせたのでは…▼「持つて生まれたもの」は、どの人にも生来内在する無限の可能性であり、「深く探って強く引き出す」ことでその人なりの強い心組みとなる…まさに生きる力の創出を示唆しているように思えます▼『少年に与ふ』には、自らの可能性と生きがいを追求し続けようとする生涯学習の原風景が息づいているような気がします。いつの時代も、この少年の心と「少年に与ふ小父さん」の気概を持ち続けたいものです。

